

《詩篇 108 篇》

0 歌。ダビデの賛歌

- 1 神よ。私の心はゆるぎません。私は歌い、私のたましいもまた、ほめ歌を歌いましょう。
- 2 十弦の琴よ、立琴よ。目をさませ。私は暁を呼びさましたい。
- 3 主よ。私は、国々の民の中にあつて、あなたに感謝し、国民の中にあつて、あなたにほめ歌を歌いましょう。
- 4 あなたの恵みは大きく、天の上にまで及び、あなたのまことは雲にまで及ぶからです。
- 5 神よ。あなたが天であがめられ、あなたの栄光が全世界であがめられますように。
- 6 あなたの愛する者が助け出されるために、あなたの右の手で救ってください。そして私に答えてください。
- 7 神は聖所から告げられた。「わたしは、喜び勇んで、シェケムを分割し、スコテの谷を配分しよう。
- 8 ギルアデはわたしのもの。マナセもわたしのもの。エフライムもまた、わたしの頭のかぶと。ユダはわたしの杖。
- 9 モアブはわたしの足を洗うたらい。エドムの上に、わたしのはきものを投げつけよう。ペリシテの上で、わたしは大声で叫ぼう。」
- 10 だれが私を要塞の町に連れて行くでしょう。だれが私をエドムまで導くでしょう。
- 11 神よ。あなたは私たちを拒まれたのではありませんか。神よ。あなたは、もはや私たちの軍勢とともに、出陣なさらないのですか。
- 12 どうか敵から私たちを助けてください。まことに、人の救いはむなしいものです。
- 13 神によって、私たちは力ある働きをします。神が私たちの敵を踏みつけられます。

本篇を読んでみて、「あれ？どこかで聞いたことがあるな」という感覚を覚えた方もいらっしゃるかもしれません。それもそのはず、この詩は過去に学んだことのある二つの詩、57 篇と 60 篇の見事なまでの合成だからです。実際に比較してみましょう。

57:7-11

- 7 神よ。私の心はゆるぎません。私の心はゆるぎません。私は歌い、ほめ歌を歌いましょう。
- 8 私のたましいよ。目をさませ。十弦の琴よ。立琴よ、目をさませ。私は暁を呼びさましたい。
- 9 主よ。私は国々の民の中にあつて、あなたに感謝し、国民の中にあつて、あなたにほめ歌を歌いましょう。
- 10 あなたの恵みは大きく、天にまで及び、あなたのまことは雲にまで及ぶからです。
- 11 神よ。あなたが、天であがめられ、あなたの栄光が、全世界であがめられますように。

108:1-5

- 1 神よ。私の心はゆるぎません。私は歌い、私のたましいもまた、ほめ歌を歌いましょう。
- 2 十弦の琴よ、立琴よ。目をさませ。私は暁を呼びさましたい。
- 3 主よ。私は、国々の民の中にあつて、あなたに感謝し、国民の中にあつて、あなたにほめ歌を歌いましょう。
- 4 あなたの恵みは大きく、天の上にまで及び、あなたのまことは雲にまで及ぶからです。
- 5 神よ。あなたが天であがめられ、あなたの栄光が全世界であがめられますように。

60:5-12

- 5 あなたの愛する者が助け出されるために、あなたの右の手で救ってください。そして私に答えてください。
- 6 神は聖所から告げられた。「わたしは、喜び勇んで、シェケムを分割し、スコテの谷を配分しよう。
- 7 ギルアデはわたしのもの。マナセもわたしのもの。エフライムもまた、わたしの頭のかぶと。ユダはわたしの杖。
- 8 モアブはわたしの足を洗うたらい。エドムの上に、わたしのはきものを投げつけよう。ペリシテよ。わたしのゆえに大声で叫べ。」
- 9 だれが私を防備の町に連れて行くでしょう。だれが私をエドムまで導くでしょう。
- 10 神よ。あなたご自身が私たちを拒まれたのではありませんか。神よ。あなたは、もはや私たちの軍勢とともに、出陣なさらないのですか。
- 11 どうか、敵から私たちを助けてください。まことに、人の救いはむなしいものです。
- 12 神によって、私たちは力ある働きをします。神こそ、私たちの敵を踏みつけられる方です。

108:6-13

- 6 あなたの愛する者が助け出されるために、あなたの右の手で救ってください。そして私に答えてください。
- 7 神は聖所から告げられた。「わたしは、喜び勇んで、シェケムを分割し、スコテの谷を配分しよう。
- 8 ギルアデはわたしのもの。マナセもわたしのもの。エフライムもまた、わたしの頭のかぶと。ユダはわたしの杖。
- 9 モアブはわたしの足を洗うたらい。エドムの上に、わたしのはきものを投げつけよう。ペリシテの上で、わたしは大声で叫ぼう。」
- 10 だれが私を要塞の町に連れて行くでしょう。だれが私をエドムまで導くでしょう。
- 11 神よ。あなたは私たちを拒まれたのではありませんか。神よ。あなたは、もはや私たちの軍勢とともに、出陣なさらないのですか。
- 12 どうか敵から私たちを助けてください。まことに、人の救いはむなしいものです。
- 13 神によって、私たちは力ある働きをします。神が私たちの敵を踏みつけられます。

以上のように、108 篇は二つの詩の一部をつなぎ合わせたものであることが分かります。タイトルに「ダビデの賛歌」と書かれてはいるものの、このような編纂作業が行なわれたのは捕囚からの帰還後と考えられています。1 節の冒頭で「私の心はゆるぎません」と強調されているところに、グラグラと揺るがされるような状況下で生きてきた人が、神の助けにより祖国の土地を再び踏むようになった感謝が表されているでしょう。

1～5 節では、力強く賛美がささげられています。2 節の「暁」という言葉は、文語訳では「しのめ」と訳されていました。主を信じる者たちが声を合わせて歌うとき、人の魂が呼び覚まされ、夜明けの太陽が東の空に昇るように人々の心が主に向けて開かれていく。そこに神の栄光が照り輝く。栄光とは、神の力強い臨在を表します。この名詞（カボード）は、重い（カベード）という動詞に由来し、神の臨在の重厚さを思わせます。

6～13 節の中で特徴的なのは、イスラエル周辺諸国の地名や民族名が並べられていることでしょう。詳しくは 60 篇のメッセージをご参照いただきたいと思います。かいつまんで申しますと、ヨルダン川を中心に東西南北に広がる地名や民族名を挙げることで、イスラエルが取り囲まれている様子を描こうとしているようです。

西…シェケム、エフライム、ユダ

東…スコテ、ギルアデ、マナセ、モアブ、ペリシテ

南…エドム

周辺民族はイスラエルを包囲しているかのようにありますが、その実、彼らを支配しておられるのは主なる神であるということを言おうとしています。「**わたしの頭のかぶと**」「**わたしの杖**」「**わたしの足を洗うたい**」「**わたしのはきもの**」という表現が繰り返されるように、最終的な世の支配者は主であり、その統治は目に見えない形で行なわれているのです。現在の世界も、陰の権力者が支配しているようでありながら、やはり究極的な支配者は私たちが信じる主であられます。

最後に、13 節に見られる神と人の働きの調和、「協働」という点に注目しましょう。「**神によって、私たちは力ある働きをします。神が私たちの敵を踏みつけられます**」。神は常に人を通してこの世界に働きかけられます。人は、神の導きの下、懸命に働くのであって、すべて神様がやったださるから何もしないでいてよいわけではありません。主を信じることと行動することとは矛盾しないのです。ですから、御心を探りつつ、失敗を恐れず、精一杯日々を生きるということが、結果として神と人との「協働」につながるのです。